

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第19号 平成21年 11月24日発行



日野市立教育センター

〒191-0042
日野市程久保550

TEL 042-592-0505
FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分

平成21年10月22日
調査研究事業中間発表会

日野市の「ICT 活用教育」に寄せる期待

日野市教育委員 千葉 義夫

わたくしたちの日野市の教育において、「ICT」を活用した教育実践が展開され、かつ、それが定着していることが、いま大きな注目を集めています。

日野市の ICT 教育における最大の特徴は、その目標として「日野市の全ての学校で、全ての教員が ICT を活用した指導を実施できるように」と定めているところにあります。一部のモデル校や、特定の先生だけが授業にコンピュータを使うというわけではないのです。

この教育施策を市も全面的に支援し、平成 18 年、19 年度において各校全ての教諭が授業で活用できるハードを配備しました。ICT については、数量的に他と比較することになじむ性格のものではないのですが、教育関係者のあいだでは、「日野市の ICT 教育は日本全国でも十指に優に入る」と、きわめて高い評価が与えられています。

そうした日野市の ICT 教育は、その実施と展開という側面において、たんにハードとしてのコンピュータや周辺機器の充実を図るだけではなく、運営にあたっての細かな配慮がなされたところに特徴があります。そのひとつが、メディアコーディネイター制度の導入でした。先生方の全員がパソコン操作に熟練しているわけではなく、なかには不慣れな先生もおられます。全ての先生が ICT を活用して効果的な指導ができるようにするため、4 名のメディアコーディネイターを配備し、必要があるときに直接、学校に出向いて先生方とともにコンピュータやネットワーク活用の教育実践を模索してきた経緯があります。ともすれば、デジタル機器を教育現場に導入するにあたって、ハードやソフトの保守のみに力点がおかれ、実践的な活用支援という面は軽視されがちです。そうしたなか、日野市においては、教育委員会内に「ICT 活用教育推進室」が設置され、学校教育現場を熟知したスタッフによって、全市の先生方を現実的に支援する態勢が整えられています。

教育委員会では、定期的に市内の小・中学校をご訪問して、授業を参観する機会があります。そうした折に、各先生方の授業において、それぞれ工夫された ICT 活用の授業が展開されています。すでに、日野市では平成 19 年度に「コンピュータ等を活用して児童・生徒の学習指導ができる小・中学校教員 100%」を達成しています。

この ICT 教育については、一部において、まだ理解が不十分であったり、本質とはいえない部分での誤解もないわけではありません。

そうした一例として、よく指摘されるのが、「コンピュータに教育をまかせてしまうと、人間味が薄れる」との批判があります。日野市が実践している ICT 教育は、コンピュータが教育をおこなうのではなく、あくまで先生が ICT を有効に活用することによって、指導内容を深め、児童・生徒の理解・定着を促進するところにあります。実際、ICT 教育導入によって、それぞれの科目でわかりやすく充実した授業が展開されるようになってきています。また、使用教材がデジタル化されることで、先生方における教材の共有や相互協力も容易になっています。

さらには、「先生がコンピュータに向かうようになってしまい、子どもと向き合わなくなってしまう」という懸念も表明されています。日野市では、ICT を授業に活用するだけではなく、校務支援システムを導入し、煩雑な校務において情報の共有、効率化をも図る施策を実現しています。多忙をきわめる学校の先生方が、ICT 活用によって校務に割かれる時間を短縮し、子どもたちと共に過ごす時間を増やせるようにしています。

こうした日野市の ICT 活用教育は、今後、現場の先生方が実際に授業や校務において使用した経験を積み重ねることによって、さらに大きな進歩がなされるであろうことを、心より期待しています。

不登校児童・生徒の学習支援の仕組みに関する研究

この研究は、日野市における不登校児童・生徒の学習に ICT を活用してどのように支援したらよいかという方法について研究しています。

その方法が e-ラーニングです。

- 1 基礎研究では、適応指導（わかば）教室での実践を通し、e-ラーニングを活用した個に応じた学習支援の研究をしています。

◇「わかば教室」e-ラーニング

- (1) わかば教室では、e-ラーニングシステムを活用し、インタラクティブスタディ教材で個に応じた個別学習支援をしています。
- (2) e-ラーニング担当指導者2名が主に学習支援をしています。

①学習意欲・関心

わかば教室に通い、学習が進む中で、前向きな気持ちでパソコンに向かい、できた自信・実感が学べる楽しさ・学ぶ楽しさへ変化がみられるようになってきています。

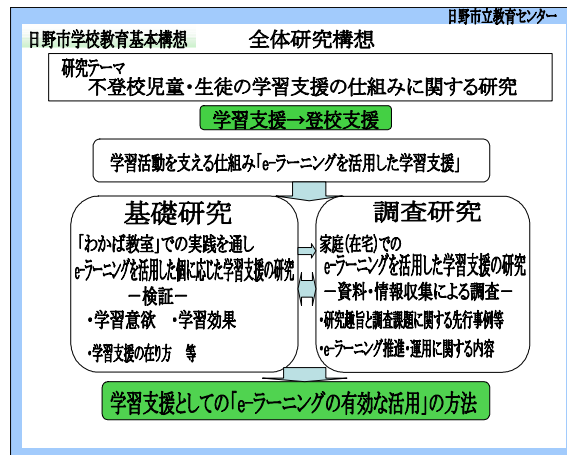
②学習効果

学習時間を設定（学ぶ機会を保障）したことにより学習時間に間に合うように通室してくるようになってきています。また、個別の学習活動支援をすることで、つまずきやあまり学習できなかった内容を段階的に学習しはじめるようになってきている児童・生徒が多くなってきています。

- 2 調査研究では、家庭（在宅）の児童・e-ラーニングを活用した学習支援の研究を、資料や情報収集を行い先行事例の調査をしています。

ひのっ子学習システムと児童・生徒（在宅）の家庭とを実際に接続させた e-ラーニングについて具体的に研究を進めることにしています。

基礎調査研究係



平成21年度「わかば教室」e-ラーニング活用学習支援

目標
e-ラーニングシステムを活用した学習支援を行い学校復帰へのきっかけを促す
・「わかば教室」児童・生徒に学ぶ機会を保障する
・基礎学力を補充する

学習日
固定日（パソコン室及びe-ラーニング学習室）
月：学習タイム1→小学生
学習タイム2→中学生
学習タイム3→中学3年生
水：学習タイム1→小学生
学習タイム2→中学生

学習支援→登校支援



研究経過 2. 調査研究

ねらい

「家庭（在宅）でのe-ラーニング活用の調査研究」
・家庭（在宅）でのe-ラーニング導入事例や活用の実態を資料・情報収集を通し、調査研究する。

I. 資料・情報収集による調査

- ①文部科学省通知関係資料
- ②国立教育政策研究所生徒指導研究センター「不登校支援のためのIT活用ガイド」
- ③「e-ラーニング白書」
・経済産業省商務情報政策局情報処理振興課編、オーム社
・先進学習基盤協議会（ALIC）報告書
- ④不登校児童・生徒へのITによる効果的支援先行研究資料等
・長野市教育の情報化推進共同研究会
・松原市不登校児童支援のしくみ（ホップ・ステップ・ジャンプ）
- ⑤先行事例
- ⑥他地域の動向の把握

e-ラーニング活用推進上の課題
e-ラーニング活用運用上の課題

・不登校児童・生徒の現状
・不登校児童・生徒の在宅学習の実態と在宅学習のニーズ等
・在宅でのe-ラーニング活用のための条件と支援の在り方 等

今年も活躍するICTの日野

 学校間共同学習について説明する校長先生	 認定証「ICT マーク」の説明をする ICT 活用室長	 学校C I O戦略について説明する校長先生
--	--	---

日野市独自の認定証「ICTマーク」

1 「ICT マーク」とは、

昨年度、全小中学校でのICTの一層の促進、日常化のために「ICT審査」を創設しました。審査は、「セキュリティ部門」「授業での活用部門」「校務での活用部門」の3つの部門で実施し、基準をクリアした学校に「ICTマーク」を交付します。

今年度も引き続き、審査を実施し、全校交付を目指します。

2 三部門の主な審査項目

(1)セキュリティ部門 (20年度 5校認定)

USBなどの記録媒体を持ち出す場合、使用台帳に記載した上で管理職の承認を得てから利用する。セキュリティカードの保管方法について、対策基準に準拠した明確なルールが存在して、そのとおり運用されている。など、10項目です。

(2)授業での活用部門 (20年度 3校認定)

教員が、デジカメや書画カメラなどICTを活用して教科の指導を行っている。児童生徒が、グループウェアでの意見交換などICTを活用して学習している。など、5項目です。

(3)校務での活用部門 (20年度 4校認定)

校務支援システムの週案時数管理、成績管理システム、ひのっ子宝箱の活用など、5項目です。



日野市の理科教育の充実を目指して

理科教育推進研究委員会

学習指導要領の改訂に伴い、理科教育の充実が求められています。日野市ではこの改訂や「日野市学校教育基本構想」を受け「誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方」を構築し、ひのっ子の理科の基礎学力の向上に向け、平成20年から教育センターに理科教育推進研究委員会を設け研究を進めています。そして、これまでに構想した教育センターの役割や支援のあり方を基本に、今年度は実践的に日野市の理科教育の質的改善を図ることを目指して研究活動を進めています。

研究を進めるために、教育センターに理科教育推進研究委員会を設け(右図)、ひのっ子教育21開発委員会、デジタル教材モデル校、理科支援員配置事業等を包含し、各学校の理科授業への支援の在り方を具体的に実践を通して研究を進めています。

1 理科支援員の配置事業

実験観察を通して理科授業を

教育センター：理科教育推進研究委員会
(理科支援センターの役割)

理科授業への支援のあり方の検討と実践化

**ひのっ子教育21
開発委**
JSTデジタル
教材：活用化
全国に情報発信

モデル校<理科>
普及の推進
全国大会会場校

理科支援員配置事業

理科研究校

充実させるために文部科学省から理科支援員配置が予算化され3年目を迎えています。

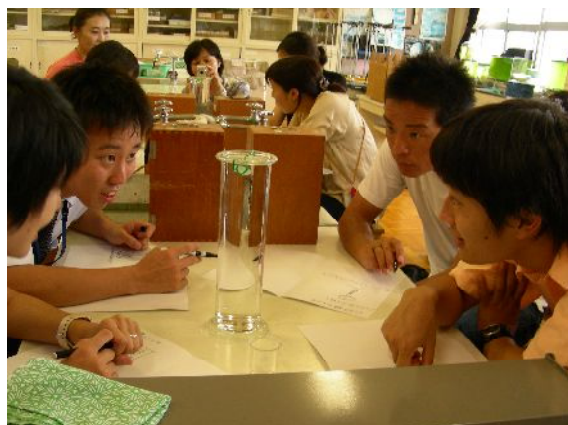
右の写真は、ある学校の保護者が複数で支援員に応募し、先生から理科の指導を受けながら教材づくりを進めているところです。慣れない中で頑張っています。

理科の授業では、実験・観察の器具等の準備・片づけ等に手間がかかり、この準備等を進めるのが支援員の役割です。

2 教員の理科実技研修を開催

理科授業の充実を図るために、今年度新たに教員を対象にした実技研修会を実施しています。ベテランの教師から実技指導を受ける機会を設けました。(右写真)、

また、企業の社会貢献活動として富士電機の技術者から電磁石やコンデンサーの指導を受ける機会が得られ、更に多摩動物公園の協力を受け、昆虫研修会も実施し、「自信がついた」など、研修の効果が上がっています。



理科デジタル教材(理科ねっとわーく)の活用

ひのっ子教育 21 開発委員会

ひのっ子教育 21 開発委員会（以下：開発委と表記）では、従来の実験・観察指導に加えてデジタル教材を活用することで、より魅力ある理科授業を展開できるよう、理科を教える教師の指導力を向上させ、ひのっ子の基礎学力向上を図ることを目指し、教育センターの理科教育推進研究と連携して研究活動を進めています。

この理科ねっとわーくは、文部科学省の独立行政法人「科学技術振興機構（J S T）」が開発を進めている映像を使った理科の教材がインターネットで配信されるシステムを活用した教材です。この教材を活用するには、I C Tのシステムが整備されている事が重要です。活用環境が整っている日野市にはとても有効な教材であり、J S Tの活用研究の指定を昨年から受け、研究を進めています。

今年度は、昨年の研究に引き続き次のように活用化を進めています。

1 授業研究を進めています

これまでに中学校理科で2回、小学校理科2回と、理科授業をすでに4回実施。今年度は、小学校理科4回（各学年1回）中学校理科2回、合計6回の授業研究を計画し、今後2回授業研究会の実施を予定しています。右の写真は小学校5年生の電磁石の授業例です。



2 モデル校との連携を図っています

開発委では、モデル校（理科の全国大会会場校）とともに夏季休業中に、合同で研究会を実施し、これまで開発委での実践等の成果を活用し、モデル校の指導計画の中にデジタル教材の活用を位置付けるなど連携してデジタル教材の活用化を進めています。

3 理科実技研修会で観察・実験に合わせてデジタル教材の活用化を推進しています

夏季休業中に実施した小学校教員の理科実技研修会で、具体的な観察実験研修に併せ、実技内容に関連するデジタル教材の紹介と活用法についての研修を行いました。開発委がこれまでに蓄積したノウハウを受講者に提供し、「観察実験融合型デジタル教材」として日常の授業の中で活用できるように取り組みました。



郷土教育推進に関する研究

郷土教育推進研究委員会

ふるさと教育係

郷土教育推進研究委員会では、日野に愛着をもち日野を誇りに思うひのっ子の育成のため、本年度、次の活動を行っています。地域を知る指導者の育成、新たな郷土教材の発掘と、新しい郷土資料を活用した学習活動、郷土教育を推進する視点の拡大の3点です。それらのことについて、段階の取り組みについて紹介します。

1 地域を知る指導者の育成

フィールドワークの実践



②よそうの森堀



①蚕糸試験場跡地

1 見学地

蚕糸試験場跡地 精進場
日野用水 大昌寺 神明社
中央線鉄橋 よそうの森堀
大堰 谷地川 農地
埴輪公園 七ツ塚遺跡



2 第三小学校での研修会

今回は、郷土教育指導者育成のためのフィールドワークに昨年度を上回る 27 人の参加者がありました。本委員会のメンバーを講師として日野本町・東光寺地区を回りました。日野第三小学校では講師の資料をもとにその教材化の意義、資料の活用法、授業の進め方など研修しました。先生方は、身近な所に素晴らしい教材があることや、活用の手立てを学び、授業実践への意欲を高めました。子供たちが郷土を誇りに思い、郷土への愛着を持つには、教師がまず地域を知り、自ら地域への思いを深めることが大切です。

2 新たな郷土教材の発掘と新しい郷土教材を活用した学習活動

事例紹介 (1) 蚕を育てよう



かつて日野は養蚕の盛んな地域でした。大正初期から昭和53年までは、本町地区に国立蚕糸試験場・日野桑園がありました。蚕を育てる体験学習を通して、日野の歴史を探り、先人の生活や努力を学ぶ学習活動を計画しています。

(2) 日野の野菜 日野の給食は地元の食材を多く取り入れている地産地消が特長です。東光寺大根は日野で改良された食材です。その良さや生産の工夫・苦労を調査しながら、体験的に学習を進めます。



(3) 日野の民話 新学習指導要領の低学年の国語では、民話・伝承を扱うこととなりました。日



野には民話・伝承が数多くあります。地元の民話を取り上げ、子供向けに直し、読ませ、ゆかりの地を訪ねるなど、体験学習を行います。身近な所の民話などの教材化は、子供たちに郷土への親しみを持たせることができます。

3 郷土教育を推進する視点の拡大：今後の取り組み

(1) 日野の養蚕についての調査と資料収集 (2) 日野に伝わる民話・伝承の調査と資料収集

(3) 校長講話に取り入れられる話題の収集

※ 郷土教育推進研究のまとめとして、年度末には、郷土教育指導資料 第5集を発行する予定です。また、日野市立教育センターのホームページから、過去の郷土教育指導資料を取り寄せることができます。どうぞご利用下さい。

教員の資質向上を目指す研修部の活動

研修部

教育委員会学校課で計画された日野市立小・中学校教職員の年間研修会について、研修部所員 3 名が協力体制をとって行っています。

それは日野市の教職員の資質向上や教育力の向上（特に若手教員など）に大きく貢献しています。また、夏季休業中には研修が集中するため 3 名の所員のほかに本来調査研究に当たっている所員の協力も得て、授業についての助言を 2 日間にわたって行い、若手教員の 2 学期以降の授業に役立つためその工夫についての研修会を開きました。

なお、4 月から 10 月までに協力した研修会を以下に一覧としました。研修会によってはその内容に関わらない研修会が含まれていますが、今後は所員がかつて管理職の立場にあったことから、その経験を生かし、より効果が得られる研修協力の在り方などの情報を提供できないかを検討しています。

初任者研修（全体会）	4 月 14 日	教育センター
初任者研修（授業参観）	7 月 7 日	旭が丘小学校
初任者研修（全体会）	4 月 14 日・6 月 2 日・6 月 16 日 7 月 30 日・9 月 15 日	教育センター
教科専門研修（全体会）	7 月 23 日 午前 5 6 1 名・午後 5 4 4 名	市民会館
幼児教育研修会	6 月 24 日	教育センター
幼保小学校連携教育推進委員会	4 月 23 日・7 月 10 日・9 月 7 日	教育センター
幼保小学校連携教育推進委員会	5 月 21 日	第七幼稚園
学校組織マネジメント研修Ⅰ	4 月 15 日	教育センター
学校組織マネジメント研修Ⅱ	4 月 22 日	教育センター
学校組織マネジメント研修Ⅲ	4 月 10 日・5 月 28 日	教育センター
4 年次教員研修（全体会）	5 月 14 日	教育センター
2・3 年次教員研修（全体会）	5 月 29 日	教育センター
人権教育研修	7 月 28 日	国立ハンセン病資料館
2・3 年次教員研修	8 月 20・21 日	教育センター
小学校英語活動研修	5 月 8 日・7 月 31 日 8 月 25 日	教育センター
心の教育研修	9 月 10 日	平山小学校

初任者教員授業観察と助言 50 名の初任者の授業観察と助言を 3 名で分担し、それぞれ年間 3 回、合計 1 5 0 回行うために学校訪問をしています。

4 年次教員授業観察と助言 42 名を所員 3 名で分担し、学校訪問をしています。

2・3 年次教員グループ研修会のために 3 名の所員が学校訪問をしています。

日野市教育相談室

教育相談室を内側から見て

一般教育相談係

前半の相談業務の対応 教育相談室では、4月より10月末までに約130件の「電話相談」と約1200回の「来室相談（電話面接など関連対応を含む）」がありました。この他、学校、教育相談機関、保健所、子ども家庭支援センターとの連携の活動を行いました。

相談室を内から眺めてみる 私は4月より本相談室で勤務を始めました。ここでは、相談員の日頃の様子を少し紹介し、教育相談室について理解していただければと思います。

相談者の悩みを的確に聴きとる電話相談 教育相談室には、非常勤の4名の相談員（臨床心理士）がいます。1日に2～4人が勤務し子育て・教育の相談を行っています。業務の一つは「電話相談」「子どもこころの電話相談」です。電話相談は、相談室の「窓口」でありいつでも気軽に相談できるように心がけています。ただ、対面ではなく声だけの相談ということから、必要で且つポイントをおさえた聞き取りを行い、相談者自身が納得の得られる答えをひき出せるように努めています。

相談員の連携による来室相談 「来室相談」は、電話相談の後、相談室の機能から相談内容の期待に応えられるか検討した後に進められます。相談は、原則として2名の相談員が子どもと保護者に別々にカウンセリングや面談を行う「並行面接」という形をとります。私が特に注目したのは、相談員は面接の前後に時間をかけて情報交換を行い綿密な方針を出していること、そして同時に相談の記録を詳細に行っていることでした。相談者との面談が終わると、2名の相談員は相談内容を報告し合い、どう受け止め今後進めていけばよいかを真剣に話し合います。個々の相談員は臨床心理士としての専門的な能力をもちますが、実際は子どもや保護者の心情や生活環境を十分に把握・理解・判断するために「相談員相互の連携」を大事にして進めています。当然と言われそうですが、相談員1人が1日に平均4件、多いときは5件応じている現状において大変なことです。仕事の性質上気持ちが続いてしまうこともありますが、相談室内の相談員同士の話し合いが次へのエネルギーになっているように思います。

専門職としての力量を高める研修 日頃の相談員の様子を見てわかったことは、相談員としての能力を高めるために絶えず研修をしていることでした。勤務時間後や休日に身銭を払って臨床心理の講習会や学会に参加し、子ども・保護者の理解や支援の方法について勉強しています。また、私費で購入した高価な専門書が机の上に置かれています。相談員という仕事柄どんな相談がくるか予測がつかない毎日です。常に、専門的な力量を高め、精神的にも磨くことでしか相談員の仕事をまっとうできないと思いました。

心豊かなひのっ子を育成する機関として 「日野市学校教育基本構想(平成21年2月)」には、「ひのっ子」の育成、第2項目「豊かな心の育成」には、心の悩みを解消するために「教育センターの教育相談を充実させる」とあります。教育相談室は行政サービスの中ではあまり目立たない地味な存在であり且つ効果が見えにくい機関ですが、それを必要としているたくさんの市民がおります。今後、日野市の子どもたちがたくましく、心豊かに成長するための相談機関としての役割を発揮できるよう一層努力を重ねたいと思います。

学校生活相談「わかば教室」の活動

学校生活相談係・わかば教室

－不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」－

学校生活相談係は、心因的要因やさまざまな状況によって不登校や登校をしづり、「適応指導教室」に通ってくる児童・生徒への指導及び支援を行いながら、市内各学校が抱える不登校問題の状況把握・情報提供を行っています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気です。一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命だと考えています。しかし、現在の学校生活における課題はさまざまです。そのさまざまで複雑な課題に対応し、学校との連携を取り、また諸機関・保護者とも関係を密にし、心のケア・学力向上・体力増進等を図るため、一人ひとりに対応した指導計画を立てています。相談活動を充実させ、楽しい行事を行うなど児童・生徒の活力向上を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

5日以上欠席者調査より

1 不登校による30日以上欠席した人数の変遷

年 度	小学校	中学校	合 計
平成16年	37人	92人	129人
平成17年	74	120	194
平成18年	68	130	198
平成19年	83	148	231
平成20年	90	155	245
平成21年10・1現在	53	103	156

2 平成20年度調査より100日以上欠席者

小学生45人 中学校88人

合 計 133人

3 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成20年度	4月 30日	小学生	9人	中学生	22人	合計	31人
	9月 30日	小学生	12人	中学生	35人		47人
	3月 25日	小学生	13人	中学生	41人		54人
平成21年度	4月 30日	小学生	10人	中学生	24人		34人
	9月 30日	小学生	8人	中学生	24人		32人

日野市における不登校児童・生徒数は、毎年増加しています。その中であって、わかば教室から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。学期・学年の変わり目は復帰できる大きな契機です。小さな変容を大切に、不登校改善、更に学校復帰につながるよう保護者・学校や諸機関と連携を図り、新たな不登校児童・生徒の発生も防ぐ努力を続けています。

購入図書・DVD紹介

図書・資料・広報係

- | | | |
|---|----------|---------|
| クボジュンのえいごっこ | 久保純子 | 朝日出版社 |
| 英語あそび（入門編）（野外編） | こどもくらぶ | 今人舎 |
| 絵でわかる英語じてん（1～5） | 学研辞典編集部 | 学習研究社 |
| 品川発『市民科』で変わる道德教育 | 若月秀夫 | 教育開発研究所 |
| 声に出そう はじめての漢詩（全3巻） | 全国漢文教育学会 | 汐文社 |
| 発達障害と少年非行（司法面接の実際） | 藤川洋子 | 金剛出版 |
| BPD＜＝境界性パーソナリティ障害＞をもつ子どもの親へのアドバイス
ランディ・クリーガー他2名共著 荒井秀樹 佐藤美奈子訳 星和書店 | | |
| 心の理論課題 ver.2 （アニメーション版 CD-ROM） | 藤野博 | スペース96 |

四季の星座－夜空を彩る星空の散歩－（DVD） NHKエンタープライズ



教育用：図書・VTR・DVD・

資料等をご覧になりませんか？

- * いつ 月曜～金曜
9：00～17：00
- * 手続き
教育センター2階事務室

※ 蔵書の有無は、市内各小・中学校図書室からパソコンで検索できます。